交付運用報告書

Asset Management One

海外投資適格社債ファンド
＜愛称：ＩＧファンド＞

追加型投信／海外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。
さて、ご投資いただいております「海外投資適格社債ファンド」は、2019年５月15日に第191期決算を行いました。
当ファンドは、海外投資適格社債マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の企業が発行する社債および各種債券に投資を行い、長期的に安定した収益の確保を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第186期から第191期までの運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間　2018年11月16日～2019年５月15日

第186期	決算日：2018年12月17日
第187期	決算日：2019年１月15日
第188期	決算日：2019年２月15日
第189期	決算日：2019年３月15日
第190期	決算日：2019年４月15日
第191期	決算日：2019年５月15日

第191期末（2019年５月15日）	基準価額	6,749円
	純資産総額	1,941百万円
第186期～第191期	騰落率	0.9%
	分配金合計	78円

（注１）　騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
（注２）　△（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター　0120-104-694
（受付時間：営業日の午前９時から午後５時まで）

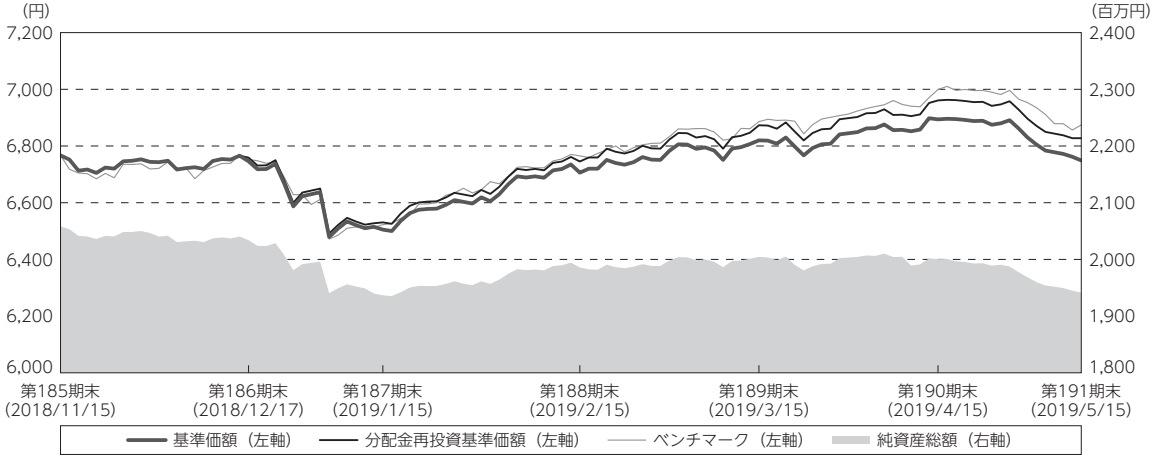
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2　http://www.am-one.co.jp/

運用経過の説明

基準価額等の推移（2018年11月16日～2019年5月15日）



第186期首：6,767円
第191期末：6,749円（既払分配金:78円）
騰　落　率：　0.9%（分配金再投資ベース）

（注1）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注2）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注3）分配金再投資基準価額およびベンチマーク（ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース））は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の<当ファンドのベンチマークについて>をご参照ください。
（注4）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示してあります。

基準価額の主な変動要因

海外投資適格社債マザーファンドへの投資を通じて本邦通貨建公社債を除く世界各国の公社債に投資を行った結果、保有債券の値上がりを受けて基準価額（分配金再投資ベース）が上昇しました。

（上昇要因）

国債利回りの低下などを受けた保有債券の値上がり。
保有債券の利息収入。

（下落要因）

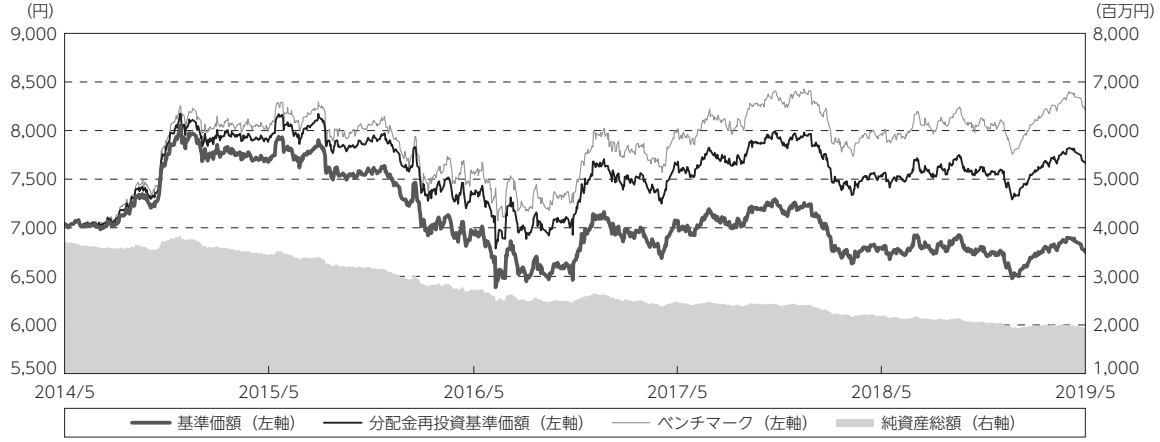
リスク回避の動きなどを背景とした円高。

1万口当たりの費用明細（2018年11月16日～2019年5月15日）

項目	第186期～第191期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	45	0.669	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(22)	(0.321)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(22)	(0.321)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(2)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	3	0.037	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.035)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用
合計	48	0.706	
期中の平均基準価額は、6,740円です。			

（注1） 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
（注2） 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注3） 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近５年間の基準価額等の推移（2014年5月15日～2019年5月15日）



（注１）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注３）分配金再投資基準価額およびベンチマーク（ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース））は、2014年５月15日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年５月15日 決算日	2015年５月15日 決算日	2016年５月16日 決算日	2017年５月15日 決算日	2018年５月15日 決算日	2019年５月15日 決算日
基準価額　(円)	7,039	7,681	6,932	7,042	6,794	6,749
期間分配金合計(税込み)　(円)	－	216	216	166	156	156
分配金再投資基準価額騰落率　(%)	－	12.3	△ 7.1	4.1	△ 1.3	1.7
ベンチマークの騰落率　(%)	－	13.8	△ 5.4	5.3	△ 0.2	3.4
純資産総額　(百万円)	3,716	3,441	2,719	2,469	2,189	1,941

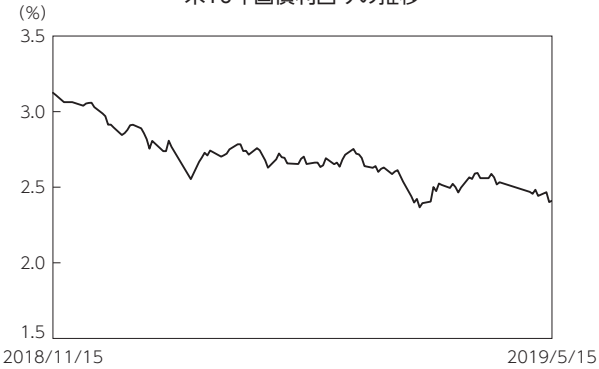
（注１）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示してあります。
（注２）純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
（注３）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注４）海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

投資環境（2018年11月16日～2019年5月15日）

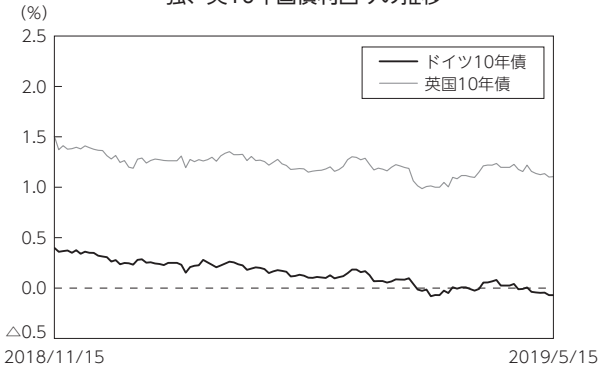
欧米債券市場

欧米債券市場は、米中間の貿易問題に対する不透明感や英国のＥＵ（欧州連合）離脱の混迷などを受けて景気の先行きに対する懸念が強まる中、米国の利上げ観測が後退したことなどから堅調となりました。

米10年国債利回りの推移



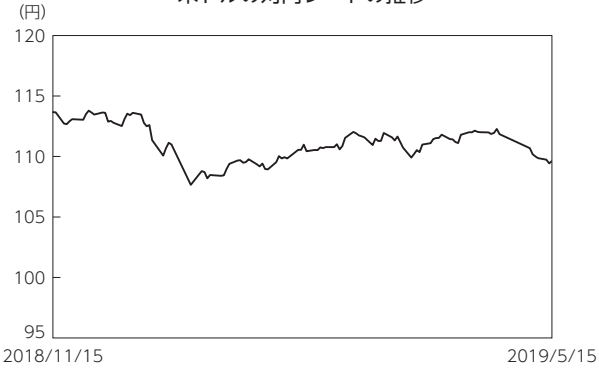
独、英10年国債利回りの推移



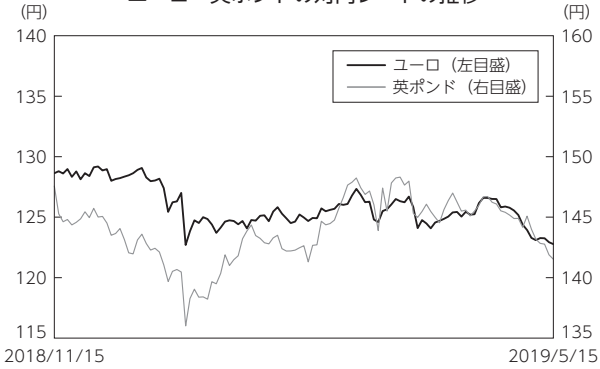
為替市場

為替市場は、世界的な景気の先行きに対する懸念が強まったことなど受けたリスク回避の動きから円が対ユーロ、英ポンド、米ドルで強含む展開となりました。中でも、欧州通貨は景気回復が鈍いことに加え、比較的金利が低いこともあり、米ドルに対して下落する流れとなりました。

米ドルの対円レートの推移



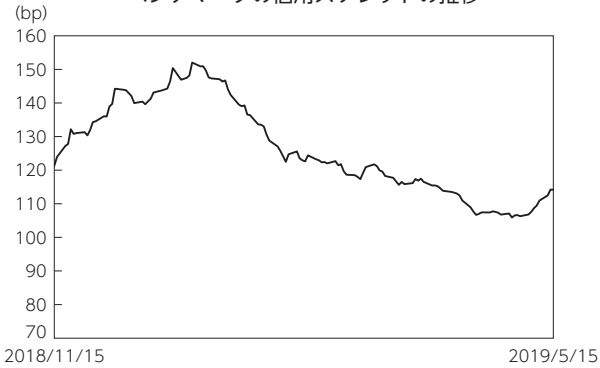
ユーロ・英ポンドの対円レートの推移



社債市場

社債市場については、景気の先行きを懸念したリスク回避の動きから一時上値の重い場面があったものの、米国の利上げ観測が大きく後退する中で堅調な推移に転じました。こうした環境の下、対国債スプレッドは縮小しました。

ベンチマークの信用スプレッドの推移

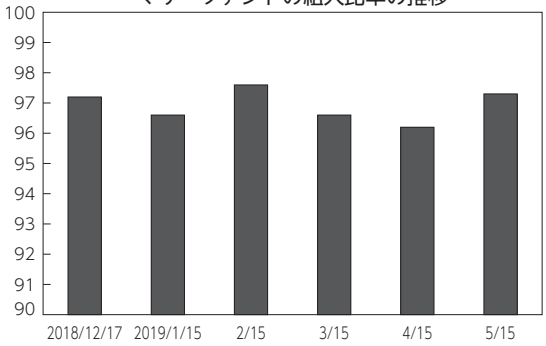


※信用スプレッドとは、ベンチマークと国債との利回り格差です。
※100bp＝1％

ポートフォリオについて（2018年11月16日～2019年5月15日）

●当ファンド
　当ファンドの運用においては、海外投資適格社債マザーファンドの高位組入れを継続しました。

当ファンドの海外投資適格社債
マザーファンドの組入比率の推移



●海外投資適格社債マザーファンド
　海外投資適格社債マザーファンドの運用状況は以下の通りとなりました。

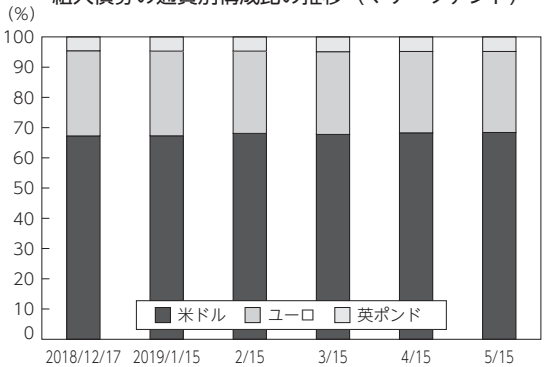
①セクターおよびクレジット戦略については、米国を中心とした世界的な景気回復が見込まれ、米国を中心に金融引き締めが継続するとの想定の下、大手金融セクターを中心に投資を行いました。信用格付け別のウエイトで見ますと、ベンチマークであるＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）に対してＡ格以上の格付けの比率を高めとしました。

②デュレーション（金利感応度）については、米国の債券利回りが中長期的に上昇すると想定し、ベンチマークに対してやや短めの水準としました。

③通貨配分は、作成期間を通じてベンチマークと同程度の配分としました。

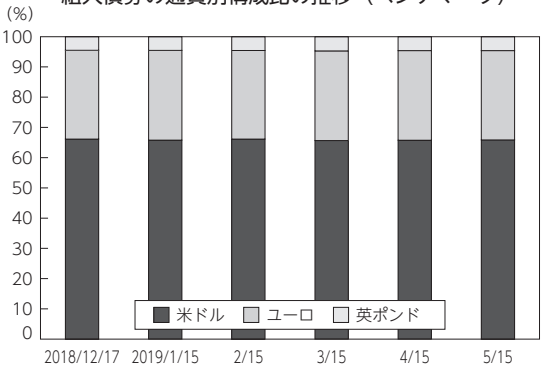
④作成期末時点におけるマザーファンドの債券組入比率は98％程度、マザーファンドの債券ポートフォリオは、平均クーポン3.7％程度、平均最終利回り2.8％程度、平均直接利回り3.5％程度、平均残存年数8.3年程度、平均デュレーション6.3年程度としております。（平均最終利回りはキャッシュを含めて計算しています。）

組入債券の通貨別構成比の推移（マザーファンド）



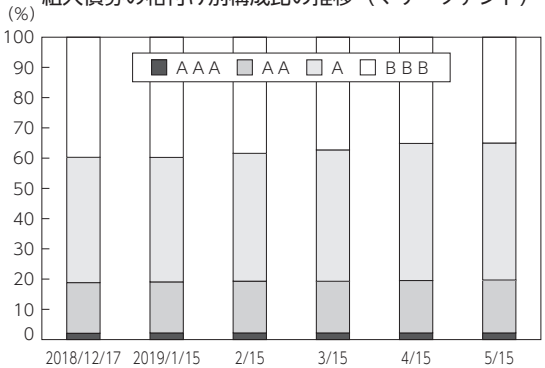
※比率は、債券時価総額に対する割合。

組入債券の通貨別構成比の推移（ベンチマーク）



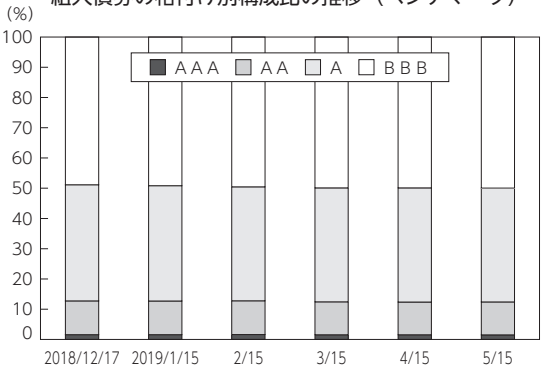
※通貨別構成比を100%として算出しています。
※ベンチマーク：ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本）。

組入債券の格付け別構成比の推移（マザーファンド）



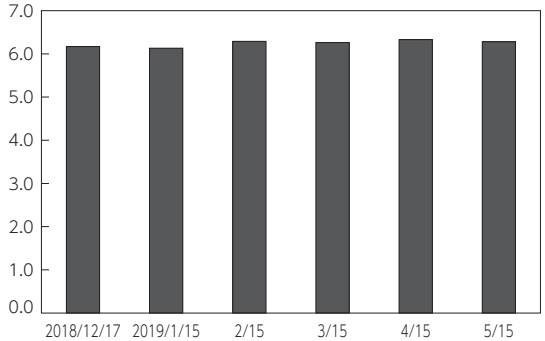
※比率は、債券時価総額に対する割合。

組入債券の格付け別構成比の推移（ベンチマーク）



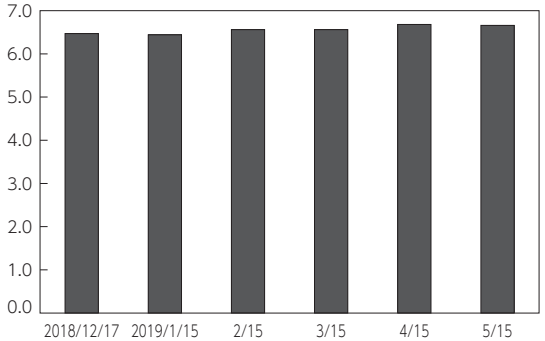
※ベンチマーク：ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本）。

デュレーションの推移（マザーファンド）



※永久債は、投資家から見た合理的な債券の償還日「繰上償還可能日」を基に計算しています。

デュレーションの推移（ベンチマーク）

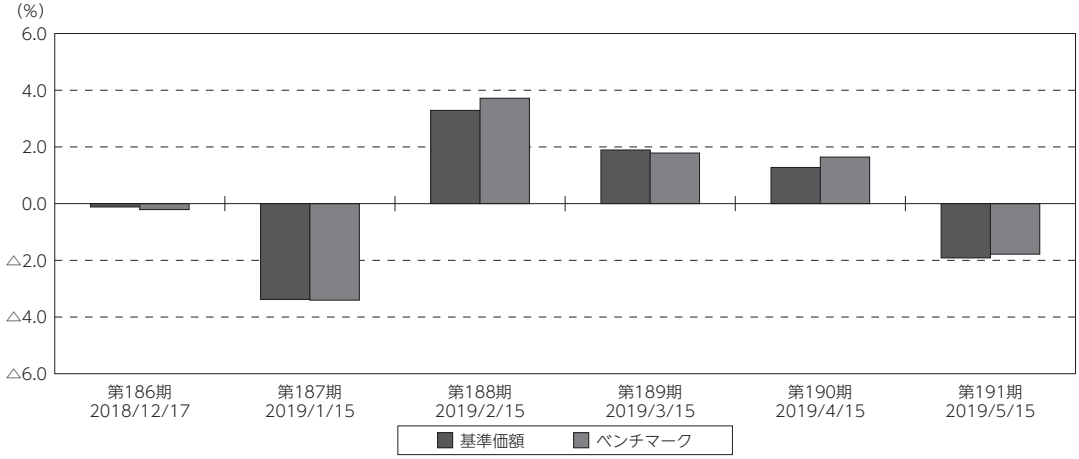


※永久債は、投資家から見た合理的な債券の償還日「繰上償還可能日」を基に計算しています。

ベンチマークとの差異について（2018年11月16日～2019年5月15日）

作成期間における当ファンド及びベンチマークであるＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）とのパフォーマンスの差異は以下の通りです。

【基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）】



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

（単位：%）

	差異	基準価額騰落率	ベンチマーク騰落率	要因
186期	＋0.09	△0.12	△0.21	ベンチマークとの為替評価差でプラスとなりました。
187期	＋0.03	△3.38	△3.41	ベンチマークとほぼ同程度のパフォーマンスとなりました。
188期	△0.43	＋3.29	＋3.72	ベンチマークとの為替評価差でマイナスとなりました。
189期	＋0.11	＋1.89	＋1.78	ユーロ建て債券部分のセクター効果でプラスとなりました。
190期	△0.36	＋1.28	＋1.64	ベンチマークとの為替評価差でマイナスとなりました。
191期	△0.13	△1.91	△1.78	ユーロ建て債券部分のセクター効果でマイナスとなりました。

（注１） 基準価額騰落率は分配金込み。
（注２） 差異＝基準価額騰落率－ベンチマーク騰落率。
（注３） 要因は、当ファンドが投資している海外投資適格社債マザーファンドの運用状況とあわせて記載しております。

分配金（2018年11月16日～2019年5月15日）

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第186期 2018年11月16日～ 2018年12月17日	第187期 2018年12月18日～ 2019年1月15日	第188期 2019年1月16日～ 2019年2月15日	第189期 2019年2月16日～ 2019年3月15日	第190期 2019年3月16日～ 2019年4月15日	第191期 2019年4月16日～ 2019年5月15日
当期分配金	13	13	13	13	13	13
（対基準価額比率）	0.192%	0.199%	0.193%	0.190%	0.188%	0.192%
当期の収益	12	10	13	13	13	11
当期の収益以外	0	2	－	－	－	1
翌期繰越分配対象額	112	109	115	118	123	121

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金」（税込み）の額が一致しない場合があります。
（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金」（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

市況見通し

世界経済は、米国では、雇用環境が安定推移しているほか、景況感指数は高水準となっており、底堅い景気動向を想定します。欧州に関しては、引き続き景気の先行き不透明感が強まっていることには注意が必要です。また、英国のＥＵ離脱問題に対する進展が窺えないことも懸念材料と見込まれます。

債券市場に関しては、米国では、依然として底堅い景気動向が窺えることから市場金利が上昇する可能性があります。欧州に関しては、ＥＣＢ（欧州中央銀行）の金融政策や英国のＥＵ離脱交渉を睨んだ動きを想定しています。また、投資適格社債に関しては、財務状況が安定していると考えられるほか、国債と比較して高い利回りが享受できることなどから一定の投資家需要は継続し、底堅い推移を見込んでいます。今後の対国債スプレッドは、政治動向に加え、景気動向や金融政策、投資家のリスク選好の度合いなどの諸要因を睨んだ推移を予想しています。

為替市場は、米ドルは金利差や景気の格差などを背景に欧州通貨に対して強含む動きを想定しています。円に関しては、世界貿易の行方などを睨んだ投資家のリスク許容度を反映して短期的に値動きの荒い展開を想定しています。

運用方針

●当ファンド

今後も海外投資適格社債マザーファンドへの投資を継続し、投資信託財産の成長を目指して参ります。

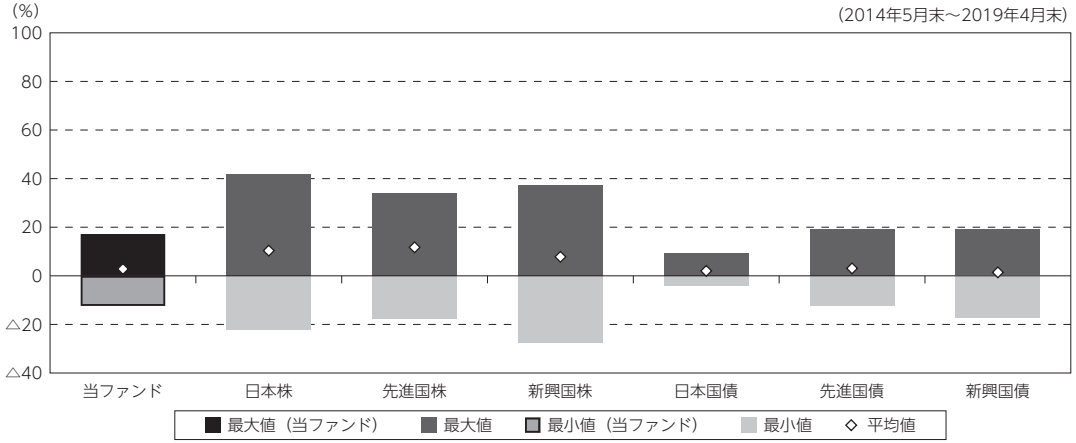
●海外投資適格社債マザーファンド

底堅い米国景気が見込まれる中で、米中間の貿易問題の鎮静化が進めば、中長期的に金利が上昇すると想定し、デュレーションに関してはベンチマークに対して短期化した水準を継続します。また、新規発行市場および流通市場の双方において、魅力的な投資機会を積極的に活用していく方針です。通貨配分については、現状程度を継続します。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	原則、無期限です。	
運用方針	ベンチマークであるＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）を上回る投資成果を目指します。	
主要投資対象	海外投資適格社債ファンド	海外投資適格社債マザーファンドを通じて、本邦通貨建公社債を除く世界各国の社債および各種債券を主要投資対象とします。
	海外投資適格社債マザーファンド	本邦通貨建公社債を除く世界各国の社債および各種債券を主要投資対象とします。
運用方法	海外投資適格社債マザーファンドを通じて、主として世界各国の社債に投資し、ベンチマークであるＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）を上回る投資成果を目指します。 実質的な外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。 公社債の実質組入比率については原則として高位を保ちますが、資金動向、市場動向によっては上記のような運用ができない可能性があります。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、上記分配対象収益範囲のうち原則として利息収入相当部分とします。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	17.2	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 12.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.8	10.4	11.7	7.8	2.0	3.1	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
(注) 2014年５月から2019年４月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

＊各資産クラスの指数
日本株……東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）(配当込み)
先進国株…ＭＳＣＩコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株…ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債…ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債
先進国債…ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債…ＪＰモルガンＧＢＩ－ＥＭグローバル・ディバーシファイド（円ベース）
(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について
騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

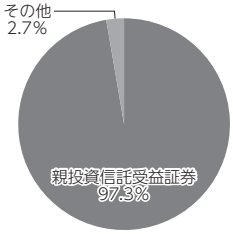
当ファンドの組入資産の内容（2019年5月15日現在）

◆組入ファンド等

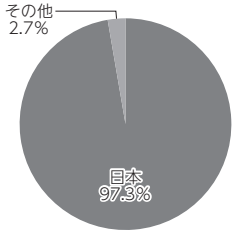
銘柄名	第191期末
	%
海外投資適格社債マザーファンド	97.3
組入銘柄数	1銘柄

（注1） 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注2） 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

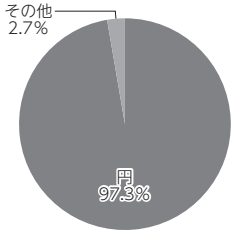
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1） 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注2） 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
（注3） その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。
（注4） 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

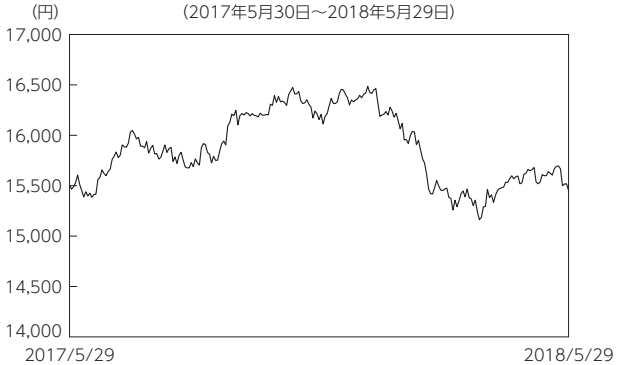
項目	第186期末	第187期末	第188期末	第189期末	第190期末	第191期末
	2018年12月17日	2019年1月15日	2019年2月15日	2019年3月15日	2019年4月15日	2019年5月15日
純資産総額	2,034,158,955円	1,936,655,112円	1,985,723,134円	2,004,435,338円	2,000,444,295円	1,941,296,851円
受益権総口数	3,015,418,253口	2,977,328,508口	2,961,157,798口	2,938,953,325口	2,901,872,938口	2,876,556,472口
1万口当たり基準価額	6,746円	6,505円	6,706円	6,820円	6,894円	6,749円

（注）当作成期間（第186期～第191期）における追加設定元本額は93,484円、同解約元本額は165,451,758円です。

組入ファンドの概要

[海外投資適格社債マザーファンド]

◆基準価額の推移



◆１万口当たりの費用明細

(2017年5月30日～2018年5月29日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用	9	0.059
(保管費用)	(9)	(0.058)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	9	0.059
期中の平均基準価額は、15,876円です。		

(注１) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。
(注２) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注３) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注４) 比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第４位を四捨五入してあります。

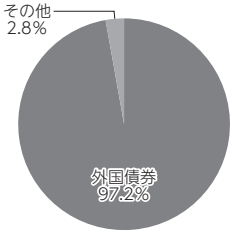
◆組入上位10銘柄

(2018年5月29日現在)

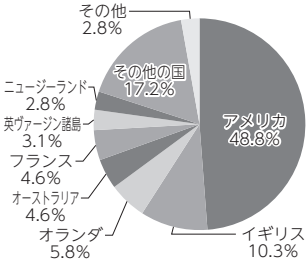
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	JPMORGAN CHASE & CO 3.9% 2025/7/15	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.6
2	EXP-IMP BANK OF KOREA 2.25% 2020/1/21	特殊債券(除く金融債)	米ドル	韓国	2.6
3	SACRAMENTO CALIF MUN UTI 6.156% 2036/5/15	地方債証券	米ドル	アメリカ	2.3
4	CALIFORNIA ST 7.55% 2039/4/1	地方債証券	米ドル	アメリカ	2.2
5	GENERAL ELEC CAP CORP 6.75% 2032/3/15	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.1
6	WAL-MART STORES INC 3.3% 2024/4/22	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.1
7	21ST CENTURY FOX AMERICA 9.5% 2024/7/15	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.0
8	EDF 6.95% 2039/1/26	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	フランス	2.0
9	GOLDMAN SACHS GROUP INC 5.75% 2022/1/24	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.0
10	METLIFE INC 6.4% 2036/12/15	普通社債券(含む投資法人債券)	米ドル	アメリカ	2.0
組入銘柄数		67銘柄			

(注１) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注２) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。
(注３) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

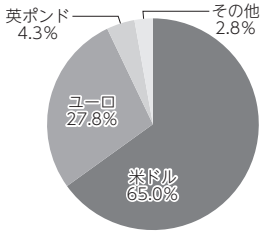
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注１) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注２) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
(注３) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。
(注４) 比率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

●ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）
ＦＴＳＥ世界ＢＩＧ債券インデックス社債セクター（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要市場をカバーする投資適格債インデックスの社債セクターです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

●「東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。
同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。

●「ＭＳＣＩコクサイ・インデックス」は、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．に帰属します。また、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●「ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス」は、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．に帰属します。また、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●「ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●「ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本）」は、ＦＴＳＥ Ｆｉｘｅｄ Ｉｎｃｏｍｅ ＬＬＣにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はＦＴＳＥ Ｆｉｘｅｄ Ｉｎｃｏｍｅ ＬＬＣの知的財産であり、指数に関するすべての権利はＦＴＳＥ Ｆｉｘｅｄ Ｉｎｃｏｍｅ ＬＬＣが有しています。

●「ＪＰモルガンＧＢＩ－ＥＭグローバル・ディバーシファイド」は、Ｊ．Ｐ．モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はＪ．Ｐ．モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

Asset
Management
One